

デンタルプラークは 命さえ奪う暗殺軍団!?



史上最大の暗殺軍団デンタルプラーク

奥田克爾 著

A5判/148頁 定価：本体 3,200円+税
医歯薬出版（2016年3月）

横浜市中区・丸森歯科医院
評・丸森英史（歯科医師）



デンタルプラークに関する研究の進歩には目を見張るものがあります。デンタルプラークの生成過程や病原性の仕組みが細かくわかってきました。本書は日本で指導的な立場からデンタルプラークの研究を牽引されてきた、奥田克爾先生による解説書です。

歯ブラシでただ取るだけの対象であった歯垢から、コントロールしなければならないプラーク、そしてバイオフィルム感染症の原因としてのデンタルプラークへと、ここ20年で考え方がめまぐるしく変わってきています。微生物は直接見える対象ではないので、歯周組織の変化のように実感を得ることが難しいのですが、齶蝕にしても歯周病にしても、直接の悪さをする主役はデンタルプラークです。その複雑さから研究途上の部分もあるでしょうが、何とせよその振る舞いをおおむね理解しておかなくてはなりません。本書は、デンタルプラークがどの

ように全身の病や、健康にかかわっているか、実にわかりやすく解説されています。

これまでデンタルプラークが他臓器の疾患や糖尿病などの代謝障害に関連することに、大きな関心もたれてきました。患者さんからも質問されることが多いでしょう。臨床に従事する私たちには、的確な理解をもとにしたわかりやすい伝え方が求められます。若い歯科医師や歯科衛生士にとって、この本を読むことで得られるメリットは計りしれないでしょう。

トピックス的な話題をいろいろな情報源でつかんでいても、全体像を的確に理解しておくことは意外に難しいものです。本書は、デンタルプラークに対する俯瞰的な情報が広く解説されています。研究にまつわるエピソードにも触れているため、研究現場の臨場感も伝わってきます。難しい話を、そのまま難しく書くことは専門家にとって容易なことかもしれませんが、本書のようにわかりやすく間違いない形で伝えることができているのは、奥田先生の才能でしょう。十分に深い内容であるにもかかわらず、読みとおせるのは先生の巧みな文章力とやさしい語り口によるものだと思います。研究者として伝えたい熱き思いが、「暗殺軍団」というドキッとさせる書名からも伝わってきます。

本書の表現はそのまま利用して患者さんに伝えることもでき、よい手引き書にもなります。また奥田先生は多くの専門書を出されており、いままで専門書を敬遠してきた方も、本書のようなガイドブックを読むことで、専門書を手に取りやすくなるのではと感じました。

デンタルバイオフィルムの最先端の情報を俯瞰的に理解するのに最適な書として、ぜひ多くの歯科関係者に手にとってもらいたいと推薦いたします。